

令和2年度における競技力向上対策について

「滋賀県競技力向上基本計画」に定める充実期の最終年となる令和2年(2020年)の目標である「10位台への進出」を達成するためには、本県が得意としているホッケーやボートなど「安定して得点を獲得できる競技・種別」において得点を重ねるだけでなく、近年入賞のない競技・種目の中からも本団体で入賞できるものを増やしていく必要がある。

このため、競技毎に「重点強化種別・種目」を定め「入賞数80種目以上」を目指すこととし、目標達成に向け各競技団体が策定する具体的な強化計画に基づくポイントを絞った支援を行うなど、効果的・効率的に競技力向上対策を進める。

※ 方針・目標については、滋賀県競技力向上対策本部 本部会議(3/26)での議決を経て決定

1. 成年種別の選手確保に向けた企業・大学等との連携強化と就職支援制度の充実

県内の企業・大学等に所属するチームや選手に対し引き続き強化費の支援を行い、滋賀県選手団としての活躍と優秀な成績の獲得につなげるとともに、県外大学への働きかけを強化し、競技力の高いふるさと選手を確保する。

また、平成31年4月に立ち上げた職業紹介所「SHIGAアスリートナビ」を活用し、競技力の高いアスリートや指導者を県内企業で採用いただき、競技力の底上げを行う。

- ・ 「企業・大学・クラブ支援事業」の拡充
- ・ 「SHIGAアスリートナビ」を通じた採用拡充

[令和元年度実績] (R2.3.4現在)

採用内定者 20名 (うち強化指定する企業チームが独自に採用する選手 16名)

採用協力企業 25社

2. 国体に向けた少年種別の強化計画とターゲットエイジの強化拡充

近畿ブロック大会・本団体を見据え、強化拠点校等の年間強化計画を前倒しして策定し、本団体入賞に照準を合わせた強化に取り組むとともに、強化拠点校への優秀指導者の派遣を拡充し、少年種別のさらなる競技力向上を図る。

また、ターゲットエイジについては対象選手の多くが中学生になることを踏まえ、強化拠点校で高いレベルの指導を受ける機会を充実するとともに、中学校との連携を強化し、ターゲットエイジの育成と県外流出の抑止に向けた取組を進める。

- ・強化拠点校指定および「運動部活動優秀選手・指導者等活用事業」の拡充
- ・「ターゲットエイジ重点強化事業」の拡充
- ・「次世代アスリート発掘育成プロジェクト」の継続実施

〔関連資料〕

- 【資料1】令和元年度ターゲットエイジ強化指定選手 全国大会等での活躍情報
- 【資料2】次世代アスリート発掘育成プロジェクト（滋賀レイキッズ）主な活躍情報
- 【資料3】高等学校入学者推薦選抜における配慮事項について
- 【資料4】スポーツ・文化芸術推薦選抜の状況（スポーツのみ抜粋）

3. 指導者の資質向上と確保

強化拠点校への優秀な指導者の派遣を増員するとともに、国体コーチとして選手団に帯同する指導者への支援を拡充する。

また、「SHIGA アスリートナビ」の積極的活用や、教員としての採用に向けた「スポーツ特別選考」の活用により優秀な指導者の確保を行う。

- ・「運動部活動優秀選手・指導者等活用事業」の拡充（再掲）
- ・「国体コーチ支援事業」の拡充
- ・「SHIGA アスリートナビ」を通じた採用拡充（再掲）

4. 障害者スポーツの選手発掘・育成と団体競技の育成・強化

大学や総合型地域スポーツクラブなどと連携し、団体スポーツに取り組む障害者の発掘、育成を行うとともに、全国障害者スポーツ大会の出場を目指すチームや個人選手に対する普及・強化事業を通じ、近畿予選会の突破や競技記録の向上等につなげる。

また、県内にチームのないフットベースボールのチームを創出するために、窓口となる団体との連携体制を構築し、チームづくりなどの支援を行う。

- ・「競技団体育成・強化対策事業（パラアスリート育成強化）」の拡充

5. 県障害者スポーツ大会の参加者実数の拡大

令和2年度において新たに開催されるボッチャ競技の参加者数も含め、925名を目標とし、参加者の増加に向けた取組を実施する。

具体的には、特別支援学校や特別支援学級へ生徒の大会参加に向けた働きかけを行うとともに、教職員の引率支援など、生徒が県大会に参加しやすい環境づくりに努める。

併せて、県・県競技力向上対策本部・県障害者スポーツ協会が実施する各種事業参加者の定着・拡大を図り、事業参加者の中から新たな県大会参加者が輩出できるよう取り組む。

- ・「パラスポーツチャレンジプロジェクト」（大学連携）の継続実施
- ・「障害者スポーツ推進事業」の継続実施
- ・「障害者スポーツ地域促進モデル事業」の新規実施

令和元年度ターゲットエイジ強化指定選手 全国大会等での活躍情報

【資料1】

No.	競技名	学年	大会名	成績
1	競泳	小学6年	第42回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会	50m平泳ぎ2位、100m平泳ぎ3位
2	競泳	小学5年	第42回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会	50mバタフライ6位
3	競泳	小学5年	第42回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会	50m平泳ぎ6位
4	水球	小学6年	第42回JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技水球	準優勝
5	水球	小学6年	第42回JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技水球	準優勝
6	水球	小学5年	第42回JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技水球	準優勝
7	水球	小学5年	第42回JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技水球	準優勝
8	ホッケー	中学1年	JOCジュニアオリンピックカップ第49回全日本中学生ホッケー選手権大会	優勝
9	ホッケー	中学1年	JOCジュニアオリンピックカップ第49回全日本中学生ホッケー選手権大会	優勝
10	ホッケー	中学1年	JOCジュニアオリンピックカップ第49回全日本中学生ホッケー選手権大会 第20回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会	準優勝/優勝
11	ホッケー	中学1年	JOCジュニアオリンピックカップ第49回全日本中学生ホッケー選手権大会 第20回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会	準優勝/優勝
12	ホッケー	中学1年	JOCジュニアオリンピックカップ第49回全日本中学生ホッケー選手権大会 第20回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会	準優勝/優勝
13	ホッケー	中学1年	JOCジュニアオリンピックカップ第49回全日本中学生ホッケー選手権大会 第20回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会	準優勝/優勝
14	レスリング	小学5年	第36回全国少年少女レスリング選手権大会	5年生男子 60kg級 準優勝
15	レスリング	小学5年	第36回全国少年少女レスリング選手権大会	5年生男子 56kg級 ベスト8
16	ウエイトリフティング	中学1年	第33回全国男子中学生ウエイトリフティング選手権大会	81kg級 スナッチ2位 C&J2位 トータル1位
17	ウエイトリフティング	中学1年	第18回全国女子中学生ウエイトリフティング選手権大会	40kg級 スナッチ2位 C&J3位 トータル2位
18	ウエイトリフティング	中学1年	第18回全国女子中学生ウエイトリフティング選手権大会	64kg級 スナッチ5位 C&J4位 トータル4位
19	バドミントン	小学6年	第18回日本バドミントンジュニアグランプリ2019	滋賀県代表選手 団体ベスト8
20	カヌー	中学1年	JOCジュニアオリンピックカップ 令和元年度全国中学生カヌー大会	1年生男子 カヤックシングル 準優勝
21	カヌー	中学1年	JOCジュニアオリンピックカップ 令和元年度全国中学生カヌー大会	1年生男子 カヤックシングル 3位
22	カヌー	中学1年	JOCジュニアオリンピックカップ 令和元年度全国中学生カヌー大会	1年生男子 カヤックシングル 4位
23	カヌー	中学1年	JOCジュニアオリンピックカップ 令和元年度全国中学生カヌー大会	1年生女子 カヤックシングル 6位
24	カヌー	小学6年	令和元年度全国少年少女カヌー大会	女子カヤックシングル 優勝 女子カヤックペア 準優勝
25	カヌー	小学6年	令和元年度全国少年少女カヌー大会	男子カヤックペア 7位
26	カヌー	小学6年	令和元年度全国少年少女カヌー大会	女子5.6年生普及艇 5位
27	カヌー	小学5年	令和元年度全国少年少女カヌー大会	男子カヤックペア 7位
28	カヌー	小学5年	令和元年度全国少年少女カヌー大会	女子カヤックペア 8位
29	銃剣道	中学1年	令和元年度全日本少年少女武道(銃剣道)錬成大会	中学校1年生 努力賞(ベスト8)
30	なぎなた	小学6年	令和元年度全日本少年少女武道(なぎなた)錬成大会	小学校6年生 努力賞(ベスト8)

【資料2】

次世代アスリート発掘育成プロジェクト(滋賀レイキッズ) 主な活躍状況

R2. 2. 29現在

期	競技	大会名	成績	備考
1期生 (高校1年生)	アイスホッケー	IIHF2020女子U18世界選手権ディビジョン	世界大会出場	U-16/18日本代表
	山岳	全国高等学校総合体育大会登山大会	15位	
	アーチェリー	全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技大会	個人8位 団体5位	U-17/20日本代表 JOCTリードアカデミー
	ソフトボール	第71回全日本高校女子選手権大会	ベスト16	
	ウェイトリフティング	第21回全国高等学校女子ウェイトリフティング競技選手権大会(49kg級) 第33回全日本女子ウェイトリフティング選手権大会(49kg級)	4位 6位	
	サッカー	高円宮杯JFA第30回全日本U-15サッカー選手権大会	ベスト16	
2期生 (中学3年生)	ウェイトリフティング	第18回全国中学女子ウェイトリフティング選手権大会(55kg級)	3位	
	ホッケー	第20回全日本中学生都道府県対抗11人制選手権大会	優勝	
	ウェイトリフティング	第18回全国中学女子ウェイトリフティング選手権大会(45kg級)	2位	
	ホッケー	第49回全日本中学生ホッケー選手権大会／第20回全日本中学生都道府県対抗11人制選手権大会	準優勝 ／優勝	U-15日本代表
	スノーボード	第37回JSBA日本スノーボード選手権 U-15男子スノーボードクロス	優勝	
3期生 (中学2年生)	ホッケー	第49回全日本中学生ホッケー選手権大会／第20回全日本中学生都道府県対抗11人制選手権大会	優勝 ／優勝	
4期生 (中学1年生)	バスケットボール	第49回全国中学バスケットボール大会	ベスト16	
	フラッグフットボール	NFL FLAG春季オープン中学生大会ジュニアカップ	4位	
	ウェイトリフティング	第18回全国中学女子ウェイトリフティング選手権大会(40kg級)	2位	
	ホッケー	第20回全日本中学生都道府県対抗11人制選手権大会	優勝	U-12日本代表
	ウェイトリフティング	第18回全国中学女子ウェイトリフティング選手権大会(55kg級)	10位	JAPAN RISING STAR PROJECT
	フラッグフットボール	NFL FLAG春季オープン中学生大会ジュニアカップ	4位	

高等学校入学者推薦選抜における配慮事項について

1 現状

高等学校入学者選抜における推薦の要件については、当該高等学校が示す推薦要件を満たすとともに中学校長の推薦を受けた者であることが通例であり、高等学校の推薦要件を満たさない生徒や、中学校での状況が推薦条件にふさわしくない生徒は推薦されないこととなる。

そのような中で、高等学校関係者が生徒本人や保護者に安易に推薦可能であると期待感を抱かせるような発言をすることにより、保護者が中学校長の推薦が確実であると受け止めたり、中学校長に推薦するよう迫るケースもあり、進路指導に混乱が生じることが懸念されている。

そこで、進路指導が混乱なく進められるように、平成13年滋賀県中学校長会でその取扱を明確にし、以降、関係者と協議しながら随時改訂し、県立高等学校等に依頼してきている。

平成28年、スポーツ・文化芸術推薦選抜が開始されて以降も引き続き、中学校長会・高等学校長会で確認した内容について、滋賀県中学校長会長と滋賀県中学校体育連盟会長の連名で、各県立高等学校長ならびに各私立高等学校長に対し、理解と協力を依頼する文書として発出されている。

2 中学校ならびに中学校体育連盟における対応の経過

(裏面 別表のとおり)

3 推薦に係る確認事項(令和元年度)

- (1) 夏休みから、ほぼ2学期末までの期間に、当該生徒の推薦について、互いの校長を通して確認を行う。
- (2) その後、高等学校教員（入試担当者・顧問）と中学校教員（進路指導担当者や顧問、学級担任）が懇談を行う。なお、高等学校および中学校の推薦要件を満たしそうにない場合は、いたずらに期待を持たせることがないよう、推薦の話を進めない。
- (3) その後、高等学校教員（入試担当者・顧問）と保護者及び生徒との懇談は、中学校教員の立ち会いのもと、原則的に12月に行う。ただし、県外高等学校でやむを得ず決定が早い時期になる場合、中学校側は県内外の高等学校間の公平性を欠くことにならないよう充分配慮して、その時点で情報を保護者・生徒に知らせ懇談を行う。
- (4) 上記1～3に基づく手続き以外の方法で推薦の話が進むことがないよう、関係団体にも徹底を図るよう努める。

別表

年月	懇談※ 時期設定	概要・改訂理由等
【ルールの設定】		
平成13年7月	12月1日以降	優秀選手を県内で育てるという趣旨でルールを設定
【懇談時期の設定を廃止】		
平成16年5月	(なし)	懇談時期が守られていない場合がある、懇談時期等を知らない県外私立の勧誘がある等、関係者からの指摘を受け、県内高校に不利になっているとの判断があり懇談時期の設定を廃止
【進路指導に関する注意喚起】		
平成20年6月		懇談については、いたずらに生徒・保護者に期待感を与える無用の混乱を生じたり、他の生徒への影響も大きく、中学校の教育課程や進路指導に混乱を招くことがないよう十分な配慮をするよう注意喚起(高等学校への協力も含む)
【懇談時期の設定を復活】		
平成21年7月	原則12月に実施	(趣旨) 平成20年度に注意喚起したものの、進路指導等における混乱が継続していたため、下記の目的のため懇談時期を復活 ① 早くに生徒の進路先が決定してしまうことを避ける。 ② 入試期日の早期化や早くからの勧誘に一定の歯止めをかける。
【早期の志望校決定の必要性に合わせた改訂】		
平成22年8月	原則12月に実施	(項目を追加) 私学等で決定が早い時期になる場合は、他校からの状況を本人に知らせるなど、学校間の公平性を欠くことのないよう配慮することを追加
【早期懇談要望に合わせた改訂】		
平成24年8月	原則12月に実施	(項目の改訂) 早い時期に決定を必要とする要望は県外高校からであったため、「県外高等学校で決定が早い時期になる場合は、他校からの状況を本人に知らせるなど、学校間の公平性を欠くことのないよう配慮」する内容に変更
【スポーツ・文化芸術推薦選抜開始】		
平成28年8月	原則12月に実施	(趣旨) スポーツ・文化芸術推薦選抜についても同じ取扱いとする旨を追加

※懇談：中学、高校、生徒・保護者によるもの

令和2年度 スポーツ・文化芸術推薦選抜の状況（スポーツのみ抜粋）

学校名	競技・部門・種目	募集枠(人数)	出願者数	受検者数	入学許可予定者数
堅田高校	ウェイトリフティング 男女	5名以内	5名	5名	5名
大津高校	カヌー 男女	4名以内	1名	1名	1名
	ボート 女子	2名以内	1名	1名	1名
大津商業高校	陸上競技 男女	5名以内	2名	2名	2名
	ソフトボール 女子	5名以内	3名	3名	3名
彦根翔西館高校	陸上競技 男女	10名以内	9名	9名	9名
	ハンドボール 男子	3名以内	2名	2名	2名
	ハンドボール 女子	2名以内	1名	1名	1名
	バドミントン 男子	3名以内	2名	2名	2名
長浜北高校	ソフトテニス 男子	4名以内	4名	4名	4名
	ソフトテニス 女子	4名以内	4名	4名	4名
伊香高校	柔道 男子	5名以内	1名	1名	1名
	柔道 女子	3名以内	0名	0名	0名
長浜北星高校	水球 男子	4名以内	3名	3名	3名
八幡工業高校	剣道 男子	5名以内	2名	2名	2名
	バスケットボール 男子	5名以内	5名	5名	5名
	ラグビーフットボール 男子	10名以内	10名	10名	10名
八幡商業高校	カヌー 男女	2名以内	2名	2名	2名
	ボート 女子	2名以内	0名	0名	0名
	サッカー 女子	2名以内	2名	2名	2名
草津東高校	陸上競技 男女	7名以内	9名	9名	7名
	水泳 男女	3名以内	1名	1名	1名
	サッカー 男子	7名以内	8名	8名	7名
	バスケットボール 女子	3名以内	3名	3名	3名
	剣道 男子	3名以内	3名	3名	3名
	剣道 女子	3名以内	1名	1名	1名
栗東高校	体操 男女	4名以内	0名	0名	0名
	レスリング 男女	4名以内	2名	2名	2名
	ソフトボール 男子	4名以内	1名	1名	1名
	テニス 女子	4名以内	2名	2名	2名
水口高校	ライフル射撃 男女	2名以内	5名	5名	2名
	ソフトボール 女子	5名以内	5名	5名	5名
野洲高校	サッカー 男子	10名以内	10名	10名	10名
八日市南高校	カヌー 男女	3名以内	0名	0名	0名
伊吹高校	ホッケー 男子	5名以内	5名	5名	5名
	ホッケー 女子	5名以内	3名	3名	3名
日野高校	レスリング 男女	5名以内	4名	4名	4名
計		(162名)	121名	121名	115名